

2011 年度前期授業アンケート集計結果（全体的特徴）

1. 【属性】（設問 1～設問 4）

アンケートに答えた学生の内訳は、次表の通り。

学部学科別人数・構成比					学年別人数・構成比		
学部	学科	人数	構成比	備考	学年	人数	構成比
経済学部	経済学科	802 名	35.8%		1 年	789 名	35.3%
	コミュニティ福祉政策学科	194 名	8.7%	5 年次生以上	2 年	731 名	32.7%
	臨床福祉コミュニティ学科	27 名	1.2%	1～4 年次生	3 年	515 名	23.0%
経営学部	情報メディア学科	255 名	11.4%	1～4 年次生	4 年	159 名	7.1%
	経営情報学科	12 名	0.5%	5 年次生以上	5 年以上	35 名	1.6%
	スポーツ経営学科	945 名	42.2%		科目等履 修修生な ど	7 名	0.3%
	ビジネス戦略学科	0 名	0.0%	7 年次生以上			
科目等履修生・交換留学生・聴講生		6 名	0.3%				

延べ回答者数／延べ受講者数＝回答率

2241／ 4404 ＝50.9%（昨年度：42.5%）

2. 【学習意欲】

○出席状況の欠席回数（設問 5）では、「欠席回数 0 回」が 42.6%、「欠席回数 1～2 回」が 39.5%、「3～4 回」が 15.1%、「5 回以上」が 2.8%であった。「欠席回数 0 回」と「欠席回数 1～2 回」を合わせた欠席 2 回までとした回答は 82.1%で、前年度前期（以下前回）より出席状況は 0.6%減っており、ほぼ横ばい状態である。欠席者報告システムを利用した担任教員の指導が定着してきたことが伺える。

○欠席理由（設問 6）については、「寝坊」が 40.0%、「病気等」が 34.7%、「就職活動」9.0%、「授業がつまらない」が 5.8%、「その他」が 10.5%であった。前回より「寝坊」が 7.7%増え、「就職活動」が 1.1%減っている。一方、「授業がつまらない」が 4.2%減であった。「その他」の欠席理由を記述式で記入したもの（記述式①）をみると私用のほか、選択肢と重複する寝坊、就職活動などの理由が挙げられていた。

○「授業選択の目的・動機」（設問 7）では、「必修科目だから」が 31.9%、「シラバスを見て興味がわいた」が 19.3%、「時間割を埋めるため」が 23.8%、「資格取得に必要なだから」が 11.2%、「先輩や友人からすすめられた」が 13.7%であった。「必修科目だから」が 4.1%増え、「資格取得に必要なだから」が 3.1%減った。

○「意欲的取り組み」（設問 8）については、「復習を全くしたことがない」が 43.1%、「復習を 1～2 度した」が 18.6%、「課題が出された時はする」が 12.2%、「科目の性格上しない」が 12.7%、「ほとんどする」が 7.0%、「復習を毎回する」が 6.4%となった。「ほとんどする」または「復習を毎回する」と回答した学生の割合は 13.4%で、復習をして授業に臨

んでいると思われる学生の割合は前回より 3.3%減る一方、「復習を全くしたことがない」と回答した割合が 5.2%増えている。中教審の「学士課程教育の構築に向けて」(答申)において、単位制度の実質化が求められているにもかかわらず、自主的な学習が行われていない現状から、課題を出す等の自習時間を増やす工夫が必要である。

○「シラバスが役立ったか」(設問 9)では、「見ていない」が 54.5%であった。「授業内容に興味を持った」が 34.3%、「興味は持てなかった」が 7.0%、「理解できなかった」が 4.3%、シラバスの内容を見ていない学生の割合は、前回より 3.3%増えた。半数の学生がシラバスの内容を見ないで授業に参加しており、シラバスを読ませる工夫を続ける必要がある。シラバスが参考になった点を記述式で記入したもの(記述式②)をみると、「しっかり授業の内容が書かれていた」、「授業内容が参考になった」、「主旨が明確である」という回答が見られる一方、シラバスで改善して欲しいこと(記述式②)として、「もっと簡潔にした方がいい」、「シラバスの内容が難しい」といった記述も見られた。現状では、文体や文字数の指定が無いため、これらについて検討する必要があるのではないだろうか。

3. 【授業評価】

○教科書の理解に関して(設問 10)は、「理解できる」が 54.1%、「十分理解できる」が 22.3%、「やや難解」が 19.4%、「難解すぎて理解できない」が 4.2%であった。「理解できる」と「十分理解できる」を合わせた、教科書が適切であったと思われる割合は 76.4%となり、前回より 4.8%減っている。

○補助教材(設問 11)については、「役に立った」が 44.6%、「非常に役に立った」が 22.2%、「補助教材はなかった」が 21.6%、「余り役に立たなかった」が 10.1%、「全く役に立たなかった」が 1.5%となった。補助教材を使う授業の割合は 78.4%となり、前回より 2.7%減っている。また、「役に立った」と「非常に役に立った」を合わせた補助教材が有用だとした回答した割合も 66.8%と前回より 5.2%減っている。

○板書(設問 12)については、「分かりやすい」が 46.2%、「非常に分かりやすい」が 19.8%、「科目の性格上板書はない」が 15.7%、「分かりにくい」が 8.7%、レジュメを代用し板書はない」が 7.7%、「非常にわかりにくい」が 1.8%であった。「分かりやすい」と「非常に分かりやすい」を合わせた回答が 66.0%となり、前回より 0.1%増の横ばい状態である。「分かりにくい」と答える理由を記述させた(記述式⑤)を見ると、「字が小さい」、「簡潔すぎる」、「消すのが早い」といった記述があった。

○電子化された教材の利用(設問 13)については、「よく利用されている」が 26.5%、「たまに利用されている」が 11.9%、「利用されたことはない」が 60.2%であった。(設問 11)補助教材を使う授業は 78.4%であることから、電子化された教材の利用は全授業の 3 割程度に留まっており、紙の教材からの移行について検討する必要がある。

○教員の話し方・説明(設問 14)については、「分かりやすい」が 62.4%、「どちらともい

えない」が 33.3%、「わかりにくい」が 4.2%であった。前回より「わかりやすい」が 3.2% 増えている。「分かりにくい」と答える理由を記述させた（記述式⑥）ところ、「マイクを使用してほしい」、「聞きとりにくい」、「しゃべるのが早い」といった記述があった。

○宿題・レポートの量・難易度（設問 15）については、「宿題・レポートが出されたことがない」が 43.4%、「適切である」が 40.6%、「難しかった」が 6.6%、「宿題・レポートを提出しなかった」6.2%、「量が多かった」が 1.6%、「やさしすぎる」が 1.6%であった。「適切である」とした回答が前回より 7.6%減った。また、56.6%が宿題・レポートを課しているものの、前回より 7.8%減っている。

○授業の難易度（設問 16）は「理解できる」が 46.6%、「やや難解」が 24.5%、「十分に理解できる」が 24.3%、「難解すぎて理解できない」が 4.6%となった。「理解できる」と「十分に理解できる」を合わせた回答が 70.9%となり、前回より 0.8%減のほぼ横ばい状態となっている。

○授業の受講者数（設問 17）については、「適切」が 76.6%、「多すぎる」が 16.0%、「少なすぎる」が 7.4%であった。

4. 【授業満足度】

○授業の満足度（設問 18）は、「満足も不満もない」が 34.6%、「まあまあ満足」が 34.1%、「非常に満足」が 26.6%、「やや不満」が 3.1%、「非常に不満」が 1.3%、「欠席がちでよくわからない」が 0.4%となった。「まあまあ満足」と「非常に満足」をあわせた回答が 60.7%と、前回より 4.9%減っており、また、「やや不満」と「非常に不満」を合わせた「不満」も 4.4%と前回より 3.1%減っている。大変良かったと思われる点（記述式⑧）では、「先生が一生懸命教えてくれる」、「話がわかりやすく面白い」、「授業を受けていて楽しかった」といった記述があった。また、「騒がしい人を排除してほしい」といった記述も見られ、周囲で私語を発する学生が非常に不快であるという意見が目立った。また、そのような周囲に迷惑を与える学生に対し、厳しく注意をしてほしいとの声もあがっていた。

以 上